

## 別紙

## 温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあっては名称) エヌイーシール株式会社			住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒716-1112 岡山県加賀郡吉備中央町湯山1300-15					
本票作成	部署名：総務部									
主たる業種	分類コード	19	業種名：ゴム製品製造業							
事業の概要	自動車・産業機械用部品の製造									
県内の主な工場等	番号	工場等の名称			所在地					
	①	吉備高原工場			加賀郡吉備中央町湯山1300-15					
	②	久米南工場			久米郡久米南町上弓削東ヶ丘1317-2					
	③	美原工場			加賀郡吉備中央町美原1301-1					
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500㎘以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 (●工場等の数) 3 所      ●車両台数 (②該当の場合) 台)									

計画期間	令和7年度			～			令和11年度			(5箇年度)									
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準		目標削減率		目標区分	20%以上	20～15%	15～10%	10～5%	5%未満								
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準		1.0	%							○							
温室効果ガス排出量	基準年度(令和6年度)					目標年度(令和11年度)													
	20,481 t CO <sub>2</sub>					20,276 t CO <sub>2</sub>													
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称			基準年度(令和6年度)の排出量														
	①	吉備高原工場			7,618 t CO <sub>2</sub>														
	②	久米南工場			8,801 t CO <sub>2</sub>														
	③	美原工場			4,062 t CO <sub>2</sub>														
					t CO <sub>2</sub>														
					t CO <sub>2</sub>														
					t CO <sub>2</sub>														

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 生産数量 305,098 (千個)	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		67.129 kg CO <sub>2</sub> / (千個)	66.458 kg CO <sub>2</sub> / (千個)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和6年度)	達成率(%)

#### 【目標削減率設定の基本的な考え方】

不良の削減、時間当たり生産量の改善、断熱対策など生産に対するエネルギー効率の向上により、1%以上の温室効果ガス排出削減に取り組む。

**【目標削減率達成のための推進体制】**

- ・省エネ法に基づくエネルギー管理体制の構築
- ・環境ISO14001導入(2001年度)による組織作り、削減目標の設定、継続的改善の実施
- ・各工場長で環境委員会を毎月開催し、エネルギー使用を監視し効率的な設備稼働を検討

**【排出量削減のためのこれまでの主な取組】**

工場等の名称	取組内容
・全工場	・配管エアー漏れの調査を行い、エアー漏れ分のコンプレッサー稼働を無くし、電力使用量を削減する。
・全工場	・設備改善、チョコ停対策を行い、単位時間当たりの生産数を増やし、生産性の改善を継続する。
・全工場	・不良削減による電力・燃料消費量の低減を継続する。
・全工場	・設備立ち上げ時間を分散し、電力ピーク管理を実施。 (デマンドコントロールの活用。)
・全工場	・設備アイドリング時間の短縮。
・全工場	・エネルギー高効率の設備への更新。

**【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】**

工場等の名称	措置内容
・全工場	・高効率照明器具への切り替えによる電気使用量の削減。
・全工場	・配管エアー漏れの調査を行い、エアー漏れ分のコンプレッサー稼働を無くし、電力使用量を削減する。
・全工場	・設備改善、チョコ停対策を行い、単位時間当たりの生産数を増やし、生産性の改善を継続する。
・全工場	・不良削減による電力・燃料消費量の低減を継続する。
・全工場	・設備立ち上げ時間を分散し、電力ピーク管理を実施。
・全工場	・設備アイドリング時間の短縮。
・全工場	・エネルギー高効率の設備への更新。
・全工場	・成形機の放熱部分の遮熱対策を行い、エアコン稼働の負荷を低減させ、電力使用料を削減する。

**【森林保全等吸収源対策への取組計画】**

県内での取組	無
その他	無

**【再生可能エネルギーの導入計画】**

県内での取組	無
その他	無

**【その他特記事項】**

--